

平成28年度岡山ESD推進協議会
岡山ESDプロジェクト活動支援助成金事業報告書

事業名 岡山市立後楽館高校生によるトンボの森づくり体験と環境学習

団体名 真庭・トンボの森づくり推進協議会 担当者名 高下 翼

※活動の様子がわかる写真（データもお願いします）と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

①事前学習 7月15日16:30~17:15 岡山後楽館高校 参加人数:生徒11名 教師3名 内容:ESD助成金、真庭トンボの森づくり概要説明

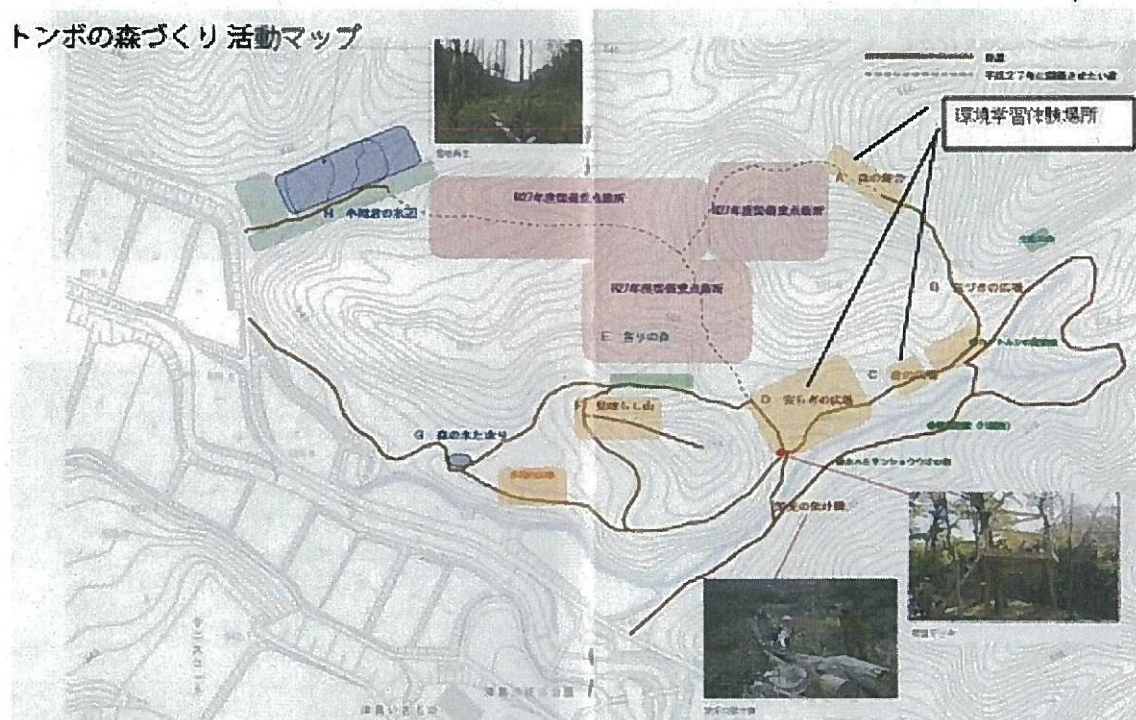
②森づくり体験活動日 第1回 7月23日(土曜日) 10時~15時30分 参加人数:生徒11名 教師2名 内容:以下記述

- ・準備体操、道具装着。
- ・真庭トンボの森づくり活動の説明（目的、関係団体、活動の経緯、整備による森の変化）
- ・森の作業上の注意と作業方法の説明、森へ移動。

移動しながら

- ・森の整備状況の説明 森の入口⇒橋⇒D 安らぎの広場⇒F 見晴山⇒C 音の広場⇒気づきの広場⇒A 森の舞台

トンボの森づくり活動マップ



- ・森の機能を考える フリップにて説明（対話式学習）
- ・森の役割と日本人の暮らしの関わり方の変遷の説明

(食べ物森を使わなくなった生活スタイルとその影響と今後)

・プロの林業家による木の伐採デモと有用樹の解説

・森の作業の注意と作業方法の説明(復習)

・笹刈り、枝切り、木の運搬作業

・昼食(交流タイム)

・森の作業 移動 森の舞台 森のハンモックを持って移動

・伐採木の皮むき体験

・森を楽しむプログラム

・ハンモック、森の散策(ネイチャーゲーム導入)

・感想、振り返り



↑木の伐採見学 ↓有用樹解説



↓枝切り

↓笹刈



↓皮むき



↓ハンモック体験



・移動 津黒高原荘にてバイオマスボイラー見学、温泉入浴

※7月23日の活動の様子は別紙 後楽館高校作成の報告書にても写真入りで説明。

森づくり体験活動日 第2回 10月1日 参加人数:生徒2名

③事後学習 (学習の振り返り)11月9日 岡山後楽館高校 参加人数:生徒8名 教師2名

- ・ 真庭トンプの森づくりで体験したことを思い出す。
- ・ 気づいたこと、分かったことを共有。
- ・ どんな事を課題や問題と感じたか共有。
- ・ 今後どのようにしたいかの意見交換。授業後文書にて提出。別紙にて添付。

2. ESD の視点を取り入れたところ、ESD の視点で見直したところ

- ① 日本人のライフスタイルの変化を森との関わりを通して説明を行った。
森の木の伐採と成長の循環により、エネルギーを賄っていた生活様式と直近 50 年ほど前から地下資源を大量に使う事によって変化した森（放置による荒廃、獣害）や産業構造・人口移動等
- ② 森が起点となり、海まで続く水の流れについて説明を行った。
森から旭川がはじまり、真庭市から岡山市へと繋がり、後楽館高校横の用水にまで到達することで森と自分たちのつながりを意識できるようにした。
- ③ 森の多面的機能の解説による、酸素、水、食料、薬、道具などの森の恵みについて説明を行った。有用樹と道具の解説や薬の機能など五感を通じて伝えた。
- ④ 森の整備体験により森の様子の変化や作業の意味を理解する。
笹刈、間伐、ヒノキ伐採見学、ヒノキの皮むき・枝払いを体験し、五感を通じて森の整備の意義を確認する。

3. 取組の成果 (参加者にどのような意識や行動の教育上の成果があったか。感想など)

高校生 12 名が 1 回、1 名が 2 回の森づくりの体験を通して、これまで考えたことがなかった森と自分たちの暮らしについて考えるきっかけとなったと感じる。(詳細は別紙生徒の感想を添付。)

当初 以下の気づきや意識・行動の変容を期待して上記の授業や活動を行った。

- ①森の多面的な価値を理解し、体験を通じた情報発信
 - ②高校生が自分たちで環境改善のために生活上や学校で実施する行動目標の設定と行動、進捗評価
 - ③周囲を巻き込んで実施する旭川の上流と下流地域の地域交流プログラムの立案と実施
- ①については、体験に 2 回参加した、後楽館高校 2 年生が「岡山子ども ESD フォーラム」と「ESD 岡山アワード 2016」で発表を行った。
- ②については、森の機能や整備が必要なことについては、全員が理解できた。行動目標は各人がそれぞれに捉えており、1, 2 年生については、今後さらに具体的な目標設定と活動の進捗について学校と連携しながらフォローする必要性を感じた。
- ③については、7 月 23 日に真庭高校、久世校地生と一緒に活動をすることで、当日の交流はできたが、具体的交流プログラム実施までには至っておらず、今後両校との調整が必

要となる。

また、岡山後楽館高校としても学校の教育目標として、以下の3点を掲げており、

1. 旭川水系の上流と下流の違いから水の循環についての理解を深める
2. 整備による森の持つ多面的な機能復活に関する理解を深める
3. 持続可能な社会の構築に向けた意識の向上を図る

概ね、今回の一連の授業と体験により、目標は達成できたと生徒の感想文（別紙添付）を通して感じる事ができたが、さらなる掘り下げについては、次年度に向け指導者との打ち合わせが必要と感じる。

4. 今後の課題と展望

次年度についても、岡山後楽館高校からは、森づくり体験活動を継続したいとの意向を受けている。については、当協議会の当初の目標と同校の教育目標のすり合わせを再度行い、森での継続した学びが行われ、同校の傍に流れる旭側支流の西川の環境整備等に関する生徒の主体的な活動がさらに社会的な広がりにつながるようなサポートプログラムを考えていきたい。

また、真庭高校、岡山後楽館高校両校の交流を川上、川下という立地も含めてどのような活動にしていくかを当協議会も交えて3者で今後検討したい。

今回は、11名という少数の参加であったが、生徒の感想等も入れた報告書を作成し、同校以外にも広く配布し、森の役割・機能や整備の意義について伝えるようにする。